



シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

[戻る](#)

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名			主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I 科目-A4 教育と社会	20140586018502	●教育と社会 I (教育原理 論)	和	E	関谷 融	1年,2年,3年,4年	集中 (後)	時間割 外	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I 科目-A4 教育と社会	20140586018902	●教育と社会 I (教育心 理)	和	E	原田 純 治	1年,2年,3年,4年	後期	火 2	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I 科目-A4 教育と社会	20140586019302	●教育と社会 I (教育行 政・制度論)	和	E	江頭 明 文	1年,2年,3年,4年	後期	月 2	～

[戻る](#)

タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-A4 教育と社会**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	集中（後）	曜日・校時	時間割外
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586018502	科目番号	05860185
授業科目名	●教育と社会Ⅰ(教育原理論)		
編集担当教員	関谷 融		
授業担当教員名(科目責任者)	関谷 融		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	関谷 融		
科目分類	全学モジュールⅠ科目、教職に関する科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）	全学生		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	教育の根本理念並びに教育に関する歴史及び思想の現代的意義を理解すること		
授業到達目標	『児童の権利に関する条約』に込められた教育（学）の基本概念とそれらにおける教育のエートスについて説明することができる。また、原理的に考察することによってそれらの有効範囲（効用と限界）を説明することができる。		
授業方法（学習指導法）	講義方式。		
授業内容	1989年に採択された『児童の権利に関する条約』の成立過程における子ども観をめぐって展開された論争における教育（学）のいくつかの根本概念を取り上げ、本条約において子どもの市民的自由が確認されるまでの、子ども観の歴史的変容と子どもの権利の拡充、及び同条約における子どもの市民的自由条項の内容 について点検する中で、教育のエートスについて講義する。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション（講義の進め方及び「エートス」とは何かについて）	
	2	児童権利条約の概要（条約の構成と意義を知る）	
	3	子ども観の変容と子どもの権利（1）（「子ども」はどう発見・発掘されたか）	
	4	子ども観の変容と子どもの権利（2）（「保護」とはどういう思想か）	
	5	子ども観の変容と子どもの権利（3）（適性手続という争点がどのような影響を与えたか）	
	6	子ども観の変容と子どもの権利（4）（表現の自由をめぐって何が議論されたか）	
	7	子ども観の変容と子どもの権利（5）（児童権利条約の審議経過：各国の事情）	
	8	子どもの意見表明権と市民的自由（1）（「主体」をどう定めるべきか）	
9	子どもの意見表明権と市民的自由（2）（「対象」をどう定めるべきか）		

	10	子どもの意見表明権と市民的自由（３）（「意見」はどう取扱われるべきか）
	11	子どもの意見表明権と市民的自由（４）（親および国の役割はどうあるべきか）
	12	総括（１）「子ども」という根本概念で何が見えるようになり、何が見えなくなったのか
	13	総括（２）「成長」という根本概念で何が見えるようになり、何が見えなくなったのか
	14	総括（３）「理解」という根本概念で何が見えるようになり、何が見えなくなったのか
	15	総括（４）「保護」という根本概念で何が見えるようになり、何が見えなくなったのか
	16	定期試験
キーワード	パラダイム エートス 保護	
教科書・教材・参考書	授業時に提示する。	
成績評価の方法・基準等	定期試験（定期試験が実施できない場合はレポート）100%。	
受講要件（履修条件）	とくになし	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	配布物を熟読しておいてください。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-A4 教育と社会**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586018902	科目番号	05860189
授業科目名	●教育と社会Ⅰ(教育心理)		
編集担当教員	原田 純治		
授業担当教員名(科目責任者)	原田 純治		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	原田 純治		
科目分類	全学モジュールⅠ科目、教職に関する科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養D棟]D-27		
対象学生（クラス等）	経済学部,薬学部,水産学部		
担当教員Eメールアドレス	harada@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部本館2階（222室）		
担当教員TEL	095-819-2396		
担当教員オフィスアワー	必要に応じて、メールにて問い合わせること。		
授業の概要及び位置づけ	将来教職に就くものにとって、各教科の指導内容・方法に精通することに加え、教育指導をどのように行うかにあたり児童生徒の心身の発達、学習のメカニズム やその動機づけ、健全なパーソナリティの育成等について基礎・基本となる教育心理学的な知識や基本的な教育的態度の習得は必要とされる。		
授業到達目標	1. 教育的諸事象を心理学の視点から捉え考察することができる。 2. 教育心理学の知見を効果的な指導に役立てることができる。		
授業方法（学習指導法）	講義形式。		
授業内容	回	内容	
	1	教育心理学とは何かーその特徴・役割・研究領域の概説	
	2	発達1 乳幼児期の発達の特徴	
	3	発達2 児童期の発達の特徴	
	4	発達3 青年期① 思考・身体・情緒の発達	
	5	発達4 青年期② 自我同一性と反抗期について	
	6	学習1 学習とは何か、学習に関する理論	
	7	学習2 学習理論に基づく学習指導法	
	8	学習3 学習の動機づけ	
	9	パーソナリティ1 パーソナリティに関する定義、理論	
	10	パーソナリティ2 パーソナリティと適応	
	11	パーソナリティ3 パーソナリティの測定	
12	教育評価1 教育評価の役割・位置づけ		

	13	教育評価 2 絶対評価・相対評価・個人内評価
	14	発達障害児の心理と指導
	15	教師の心理
	16	最終試験
キーワード	発達、学習、パーソナリティ（人格と適応）、教育評価	
教科書・教材・参考書	特に用いない	
成績評価の方法・基準等	1. 授業への貢献度(10%) 自発的な質問、講義中の質問への回答など 2. テーマ終了時の小テスト(20%) 2. 最終試験(70%)	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	講義内容に関する自主的な学習を求める。「調べ学習レポート」を課す場合がある。	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-A4 教育と社会**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586019302	科目番号	05860193
授業科目名	●教育と社会Ⅰ(教育行政・制度論)		
編集担当教員	江頭 明文		
授業担当教員名(科目責任者)	江頭 明文		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	江頭 明文		
科目分類	全学モジュールⅠ科目、教職に関する科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-41		
対象学生 (クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	a-egaega@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部棟 5 2 7 号室		
担当教員TEL	095-819-2089		
担当教員オフィスアワー	随時 (要事前メール連絡)		
授業の概要及び位置づけ	教育行政組織や教育法規等の講義や演習を通して、公教育の組織原理等に関する知識を習得するとともに、身近な事例をもとに、我が国の教育行政・制度に対する理解を深める。グループによる討議や発表活動を通して、思考力・判断力・表現力を培う。		
授業到達目標	教育行政、教育制度、教育法規等に関する知見を踏まえ、公教育についての考えを深める。		
授業方法 (学習指導法)	教育行政、教育制度、教育法規等についての講義を踏まえ、具体事例に関する法規演習やグループディスカッション等を通して、教育行政・制度についての自らの考えを構成・発表し、その成果を提出する。		
	教育にかかわる今日的な話題を取り上げながら討論・発表等を行い、主体的な学習参加を促すとともに、教育制度、教育行政、組織、教育法規等についての理解を深めるために下記手順で学習を進める。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション (授業の進め方等) 公教育の理念 1 (日本国憲法を学ぶ)	
	2	公教育の理念 2 (教育基本法を学ぶ)	
	3	地方教育行政の組織の概要 1 (教育委員会制度を学ぶ) ※地方教育行政の組織及び運営に関する法律※	
	4	地方教育行政の組織の概要 2 (国一都道府県一市町村の関係) ※地方教育行政の組織及び運営に関する法律※	
	5	教育行政組織の概要 (中央教育行政組織を学ぶ) ※文部科学省、中央教育審議会、教育実行再生会議等※	
	6	教育行政制度の概要 1 (教科書行政を考える) ※教育基本法、学校教育法、学習指導要領、教科書検定基準等※	

授業内容	7	教育行政制度の概要2（学校教育を考える） ※教育基本法、学校教育法、学習指導要領、教育課程等※
	8	教育行政制度の概要3（生涯学習を考える） ※教育基本法、生涯学習振興法、社会教育法等※
	9	教育行政制度の概要4（教職員の身分を考える1） ※地方公務員法、教育公務員特例法等※
	10	教育行政制度の概要5（教職員の身分を考える2）
	11	教育行政制度の概要6（諸外国の教育行政制度を考える）
	12	討論1 教育行政を巡る今日的な課題について1
	13	討論2 教育行政を巡る今日的な課題について2
	14	新たな教育改革の内容と方向性について ※学習指導要領改訂等※
	15	教育行政の学びから見えてきたこと（授業を整理する） ※公教育、政治と行政のかかわり等※
	16	
キーワード	教育基本法、教育委員会制度、公教育	
教科書・教材・参考書	配布資料	
成績評価の方法・基準等	出席状況30% 演習等成果資料 40% 討論の参画・貢献度 30%	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		

